

開かれた学校づくり

平成27年12月21日に、中央教育審議会から、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」の答申が出されました。

この答申全体に流れている理念は、未来を創り出す子どもたちの成長のために、学校のみならず、地域住民や保護者等も含め、国民一人一人が教育の当事者となり、社会総掛かりでの教育の実現を図ることであり、そのことを通じ、新たな地域社会を創り出し、生涯学習社会の実現を果たしていくということです。

これからの教育改革や地方創生の動向を踏まえながら、学校と地域の連携・協働を一層推進していくことが求められています。

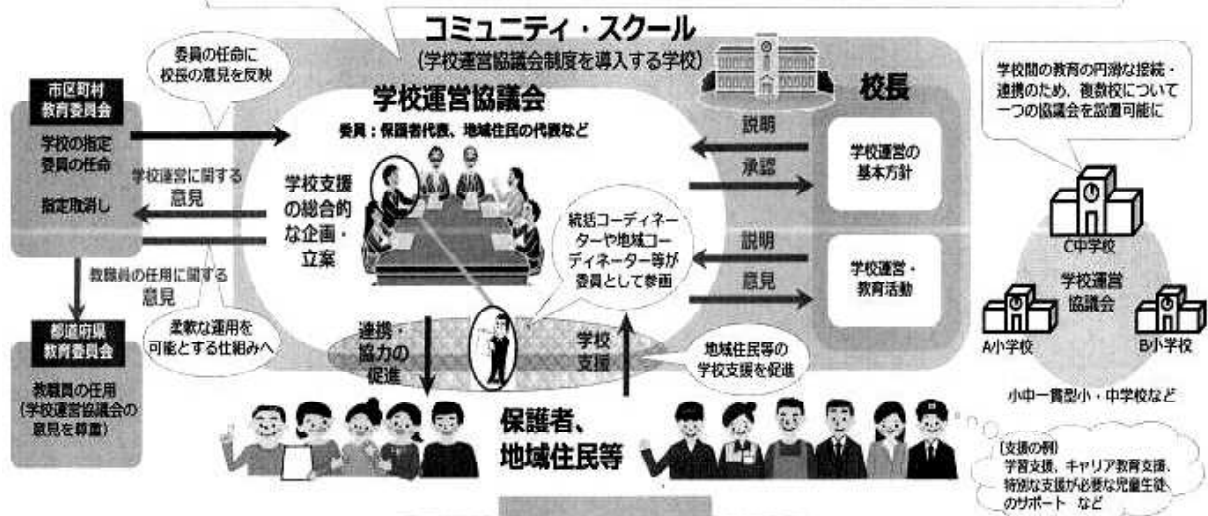
1 これからのコミュニティ・スクールの在り方

【導入に対する不安】
 「教職員の関心が低い」
 「資金が十分ではない」
 「負担が大きいのでは」
 「協議会委員の人材が不足するのでは」
 「人事権が制約されるのでは」

【基本的方向性】
 目的として、学校を応援し、特色ある学校づくりを進めていく役割を明確化
 教職員の任用に関する意見に関しては、柔軟な運用を確保する
 学校運営協議会委員の任命において、校長の意見を反映する
 複数校について一つの学校運営協議会を設置できる

＜見直しのイメージ＞

学校運営への地域住民等の参画を促進するとともに、学校を応援し、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていく役割を明確化



制度的
位置付け

■全ての公立学校においてコミュニティ・スクールを目指すべきであり、現在任意設置となっている学校運営協議会の制度的位置付けの見直しも含めた方策が必要。その際、基本的には学校又は教育委員会の自発的な意志による設置が望ましいこと等を勘案しつつ、教育委員会が、積極的にコミュニティ・スクールの推進に努めていくよう制度的位置付けを検討。

2 コミュニティ・スクールの総合的な推進方策

(1) コミュニティ・スクールの魅力

【児童生徒】

- ・学校に多様な人々がかかわっていくことで、子どもたちの学びが充実する。
- ・自己肯定感や他人を思いやる心など、豊かな心がはぐまれる。
- ・地域の担い手としての自覚がはぐまれる。
- ・子どもたちの命や安全を守るにつながる。

【教職員】

- ・地域住民や保護者等の理解・協力を得た風通しのよい学校運営が実現する。
- ・安心して仕事ができ、地域の人々が学校の応援団となってきている実感が得られる。
- ・教員としての意欲が高まり、豊かな指導力の発揮につながる。
- ・子どもと向き合う時間の確保につながる。

魅力

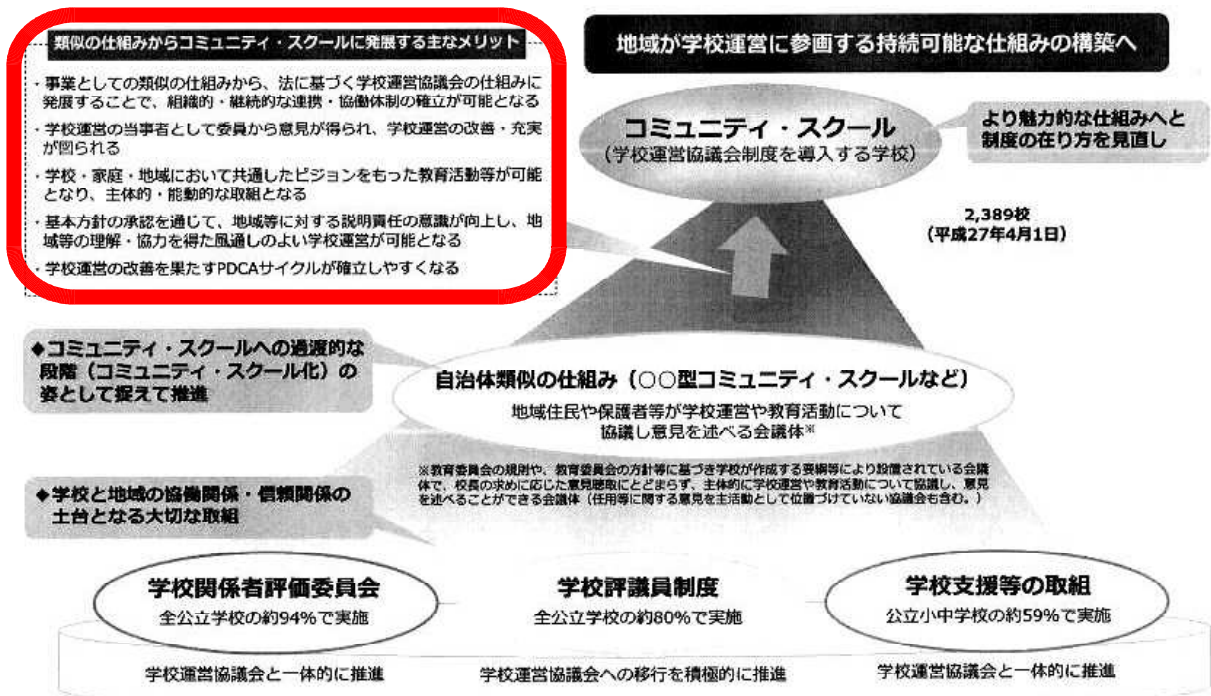
【保護者】

- ・子どもたちが地域の中で育てられているとの安心感が生まれる。
- ・保護者同士のつながりや地域の人々とのつながりが生まれる。

【地域住民】

- ・学校運営や教育活動等への参画を通じて、自己有用感や生きがいにつながる。
- ・学校が、社会的なつながりが得られる場となり、地域のよりどころとなる。
- ・地域の力を高め、地域の人々に安心と生きがいを与える。

(2) 類似の仕組みからコミュニティ・スクールに発展する主なメリット 類似の仕組みからコミュニティ・スクールに発展することによるメリットは下のとおりです。



学校・教育委員会が主体的に取り組んでいる地域との連携に関する実践を効果的に生かしていく視点が必要
学校・教育委員会が自らコミュニティ・スクールの意義や成果等を理解し、その道を選ぶことが大切